「大阪名所 じっくりMAP」

〈第9回〉海遊館と潮風ウォーキング

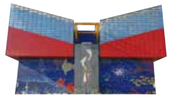
―天保山・築港―

お食事タイムのチェックは必須！

❶海遊館

港区海岸通1　☎06-6576-5501
10:00～20:00（入館は閉館の1時間前まで）
入館料／大人¥2,300　シニア（60歳以上）¥2,000
小・中学生¥1,200

太平洋の海を巡る旅を楽しめる、世界最大級の水族館。飼育展示されている生き物の数は約620種、30,000点にのぼる。一番人気のジンベエザメが泳ぐ環太平洋の海を再現した回遊型の水槽を下りながら鑑賞して行くスタイルは、自身が大海の一匹になったよう。2013年に増設した「新体感エリア」では、サメやエイに実際に触れることができたり、仕切りを低くすることでペンギンを間近で見られたり、リアルに生き物の世界が体感できる。また、ラッコやカワウソ、アシカやペンギンなど、海の人気者の食事シーンに合わせて、見るだけではわからない不思議な生態を水族館のスタッフが楽しく、詳しく解説してくれる「お食事タイム」も見逃せない。それぞれの生き物で1日1～3回、平日だけのものもあるので、ぜひ、HPのタイムスケジュールを確認してから出かけたい。



動物好きをくすぐるかわいい雑貨店

❷ギャラリー&雑貨 glögg（グルッグ）

港区築港2-8-29 播磨ビル2F　☎06-6572-6911
11:30～19:30　火曜休

昭和レトロな青いタイルの2F、大阪港に沈む夕日に惚れ込んだ店主・和田尚美さんが4年前にオープンしたギャラリーと雑貨のお店。1点ものの手作り作家によるオリジナル雑貨やブローチなどのアクセサリー、文具が種類豊富に並ぶ。お店でのライブやワークショップのイベントなども多数開催していて、毎年秋の猫作品を集めた「ネコテン」は、猫好きにはたまらないたくさんの猫グッズが揃う（開催時期はHPを要チェック）。

海の香りの“すみよしさん”

❸港住吉神社

港区築港1-5-20　☎06-6571-0196

1843(天保13)年に、本家の住吉大社から四座の御分霊が勧請された。当初は天保山に創建されたが、1864(元治元)年に天保山に難波湾防衛のための台場を設営し、砲台設置が決定したことから天保町に遷移。1906(明治39)年に大阪築港整備計画の一環として現在地に再移転する。境内には天保山砲台竣工時奉納された大砲用砲弾2弾を活用した砲丸塔碑などが残る。大阪港に出入りする船の安全を守り、海運関係者の参拝が多い。

大人の優雅な遊び場に変身！

❹築港赤レンガ倉庫（ジーライオン・ミュージアム）

港区海岸通2-6-39　☎06-6573-3006
10:00～22:00
月曜（祝日の場合は翌日）休
入館料：一般（中学生以上）1,500円
小学生500円

1923年、築港の国際港としての発展を見据えて住友倉庫が建設した、大阪では数少ないレンガ建築。全盛期には鉄道も開通し、物流の一大拠点であった。中をよく見ると、住友マークの下に三菱のマークがあり、持ち主の歴史と変遷が垣間見られる。現在はその役目を終え、2015年からはクラシックカーの博物館が開館。1900年初期から後期の車の歴史を体感でき、カフェやレストランも併設。

海事関係の書籍はここにお任せ！

❺港文庫

港区築港2丁目1-2 天保山第三コーポ 1F　☎06-6573-0271
9:00～17:30　土・日・祝日休

世にも珍しい、海事図書専門の本屋さん。江戸時代は北前船や菱垣廻船が多く訪れる「天下の台所」の玄関口だった大阪港。そして1868(慶応4)年の大阪港開港以降は、多くの外国船が訪れる国際的な港となった。そんな港町ならでは本屋さんがこちら。港湾で働く人たちの知識の元である教材や海図がたくさん置いてあり、今でも海で働く人々の知識の泉として利用されている。

ダイヤモンドポイント

「大阪港で夕陽が一番美しい場所」と看板が掲げられる絶景ポイント。正面の赤白両灯台の間に真っ赤な夕陽が沈み、日没15分間が最高のシャッターチャンス！

8月の浪曲まつりは必見！

❻築港高野山釈迦院

港区築港1丁目13-3　☎06-6571-5710

元は弘法大使が唐に向けて船出した場所とされる千船橋（ちぶねばし）の東側一帯に、重松寛勝が1910(明治43)年に開基したのが始まり。この寛勝に明治の大浪曲師、二代目廣澤虎吉が弟子入りした縁で、1931(昭和6)年には浪曲塔が建立された。戦後、現在の場所に移転された後、始まった「浪曲まつり」は60回を超える。港区はかつて港湾荷役労働者の心の癒しとして浪曲が盛んで、祭りはその伝統と魅力を伝えている。

大阪築港に生涯を賭ける

❼西村捨三像（天保山公園）

港区築港3-2

「日本一低い」とされていた標高4.5mの天保山だが、仙台市の日和山が東日本大震災の津波で標高3mになり“日本一”ではなくなった。公園内には初代築港事務所所長としての西村捨三（すてぞう）の像が建つ。第6代大阪府知事でもあり、知事になる前から大阪を一大商港にするには築港が必要と考え尽力する。1903年(明治36)に全長455mの築港大桟橋を完成。これが現在の中央突堤となり、経済都市大阪の港の基盤となっている。

今や天保山の新名物!?

❽ジンベエザメのベロタクシー

原則土日祝の14:00～18:00頃

遠くからでも一目でわかる、ジンベエザメの姿をしたエコな自転車タクシー。2016年7月から大阪市コミュニティ協会の事業の一環として運行を開始。街をよく知るドライバーが観光案内付きプラン(30分1000円)や短距離プラン(5分300円)など、都合にあわせて港町探索を手伝ってくれる。観光客だけでなく「ちょっとそこまで…」と港区の住民の足としても利用されているのだそう。エンジンがないので静かで、思った以上に乗り心地が良い。ちょっと周りの視線が気になりそうだが、潮風を感じながら颯爽と港町ドライブを楽しんでみては。

仲良し夫婦の手づくりクレープ

❾クレープ星の森

港区築港4-2-29　12:00～18:00　火・水曜休

港町の街角の小さなクレープ屋さん。おすすめは国産小麦100%の生地に砂糖と牛乳だけを煮詰めた手作りのミルクジャムをたっぷりぬった「自家製ミルクジャムクレープ」(300円)。また、外国人観光客に一番人気の、港区のとっておきのいいもん“みなトクモン”に選ばれた「港町クレープ」(480円)はカレーペーストにソーセージなどが入って、ボリューム満点。テイクアウトはもちろん、店内で温かいチャイと一緒も◎。

タルタルソースで食べる絶品ハンバーグ

❿BEE HIVE（ビーハイブ）

港区築港4-2-4　☎06-6571-3331
11:00～15:00
17:00～21:00（LOは各30分前）
日・祝日休

1951(昭和26)年に創業。当時は朝鮮戦争の真っただ中で、アメリカ軍の関係者の利用が多かった。人気のハンバーグは、下味がしっかりと付いていてそのままでも美味しいが、添えられたタルタルソースで食べると肉の旨みに酸味が加わり絶品だ。もともとサラダ用に付けていたタルタルソースを、外国人客がハンバーグにも付けていたところから今のスタイルになったそう。ハンバーグ（サラダ付）単品は1,380円、スープ、ライス、デザート、ドリンクなどが付くセットは2,570円。

インパクト大、おだまき蒸しのラーメン版

⓫丹頂

港区築港3-8-7　☎06-6576-6826
11:30～16:00　17:00～22:00　不定休

店先の「茶碗蒸しラーメン」(850円)の文字に観光客の足が止まる。以前、北新地で和食店を経営していたオーナーが、茶碗蒸しにうどんが入ったおだまき蒸しをヒントにして考案。一見すると丼入りの茶碗蒸しだが、食べていくと中からラーメンが!! まずは茶碗蒸しの玉子と出汁の旨さを堪能してから、ゆっくりとラーメンを楽しみたい。ラーメンも和風の味付けで、意外とあっさりしていて女性にも大人気。

窓際の特等席でほっこり、居心地満点カフェ

⓬ハヤシライスとお茶のお店 ハaハaハa

港区海岸通1-5-28　天満屋ビル2F
☎06-6576-0880
11:00～17:00（土・日・祝～18:00）　火・水曜休

オーナー神木さんの手づくりケーキも美味しいが、ここではぜひ、オムハヤシ（850円）を味わってほしい。トロトロの玉子と少し酸味の効いたハヤシライスが絶妙だ。店内には雑貨の他に、ジュエリー職人でもあるご主人の工房「ポルティコ」も併設。古くなった指輪を新しいデザインにリメイクしたり、自分好みのアクセサリーをオーダーしたり…。彫金の教室もあり、カップルでマリッジリングの制作もできる。

レトロビルで味わう絶品うどん

⓭築港麺工房

港区海岸通1-5-25　築港ビル1F　☎06-6571-0125
11:00～21:00（麺切れ次第終了）　無休

大阪の老舗乾物問屋がプロデュースする「本町製麺所」の系列店。食券を買って注文する半セルフスタイル。“旨い出汁”にとことんこだわったうどんは、2014年のオープン以来たちまち評判に。看板メニューの「鶏天ぶっかけ三」(720円)は、漬け込んで仕上げた大きな鶏天が3個も入ってボリューム満点。コシのある麺との相性も抜群だ。温泉卵などトッピングもOK。お茶は健康に配慮したルイボスティーが用意され、随所にこだわりが見られる。

※料金はすべて税込みとなります。